

特集 そのトラブル，どう対処する？ 血液透析編



編集責任

帝京短期大学 臨床工学専攻科

公益社団法人 日本透析医学会

篠田俊雄 SHINODA, Toshio

血液透析は体外循環治療のため，装置や機器の不具合，あるいは治療条件の設定や操作のヒューマンエラーにより患者に傷害が生じる危険性が高く，時に重篤な傷害となる．返血時に大量の空気が体内に侵入した，あるいはプライミング支援装置のオーバーフローラインから大量の血液が漏出した結果，致命的な事故となった例も知られている．血液透析でみられるさまざまなトラブルとその的確な対処法を知ることにより，治療に潜むリスクを最小限にすることができる．

トラブルは多岐にわたるが，日常的に経験するのは透析中の血圧低下や不整脈である．透析療法では適正なドライウエイトを維持して血圧をコントロールするとともに，体液過剰による容量負荷を最小限にして心肥大・心筋の再構築や不整脈の発生を防ぐことがきわめて重要である．ところが，ドライウエイトの設定が不適切であったり，除水速度が過剰であれば，透析中に血圧が過度に低下して目標のドライウエイ

トに達する前に治療を終了したり，治療終了後に起立性低血圧を呈したりするトラブルにはしばしば遭遇する．透析条件の設定ミスや装置の故障によっても同様のトラブルが発生する．バスキュラーアクセスに関するトラブルは重篤な事故は少ないものの，日常的に経験するものである．

2013年に日本透析医学会と日本透析医学会が行った透析医療事故の全国調査では，血液透析の関連事故で多かったのは，抜針事故と転倒・転落事故であり，透析液の異常による同時多発事故やC型肝炎ウイルスの院内感染のほか，プライミング支援装置における漏血事故のような新規の事故も報告されていた．

そこで今回の特集では，これらのトラブルについて取り上げた．すべてのトラブルについて解説することはできないが，頻度の高いもの，適切な対策により削減できるトラブルに絞って解説した．安全で快適な治療の一助になれば幸甚である．